

経営戦略研究科准教授(経営戦略専攻) 玉田 俊平太

1. 国際経済をリードする経営のプロフェッショナルを育成

関西学院大学は1993年から商学研究科にマネジメントコース(社会人向けMBAコース)を設置して専門職業人を育成してきた歴史があります。既に300名以上の卒業生がビジネスの幅広い分野で活躍しており、社会人向けのMBA教育では10年以上の実績を持っています。

学生は皆、高い目的意識を持っており、社会人学生は多様なバックグラウンドを持った第一線で活躍する方々です。教室では毎日、密度の濃い知的異業種格闘技大会が開かれています。

2. 理論と実践のベストミックス

教授陣は、研究者教員と実務家教員がバランスよく配置されています。また、多彩なカリキュラムを設定し、多様な科目の中から自分の目的に応じて学べるようになっています。ベーシック科目も充実していますので、ビジネスについて一から学ぶことも可能です。大阪駅にほど近い大阪梅田キャンパスは、8つの教室とパソコンを多数そろえ、多様なデータベースが自由に使えるなど、抜群の学習環境を整えています。

3. イノベーション実現指向のMOTプログラム

関西学院大学ビジネススクールのMOTプログラムは、経済産業省「技術経営人材育成プログラム導入促進事業」の支援を受けた、企業の技術経営上の問題を解決し得る実践的なMOT人材を育てるプログラムです。

日本の技術は優秀ですが、その割に国際競争力が低いのはマネジメントがうまくいっていないからです。既存のビジネスを凌駕する破壊的イノベーターとなるためには、技術力を新しいビジネスモデルへと昇華させるマネジメント能力が必要不可欠です。

関西学院大学がシンクタンクの役割を担い、企業がかえる課題の分析や解決への提案をするイノベーション実現指向の技術経営(MOT)プログラムが好評を博しています。

4. 効率的な学習を可能にする「学問答」のワンループ

1回の講義は、1時間半の授業を2コマ連続して行います。それぞれの授業では、最初に各回のテーマに対応したアイデアの提示(「学」)があり、そのアイデアに関する質問(「問」)とそれに応じたディスカッション(「答」)とを行います。これで1時間半。このワンループを「学問」と「問答」を合わせた「学問答」と呼んでいます。

まずは、無料のオープン講義や模擬講義を受けてみてください。また、学びたい科目を個別に学習する科目等履修生といった制度もあります。そして、学んでいく中でMBAという学位をめざしたいと思ったらMBAプログラムに入学してください。

経営戦略研究科教授(会計専門職専攻) 山地 範明

1. 高い倫理観を持ち、国際社会で通用する職業会計人を育成

スクールモットー“Mastery for Service”（奉仕のための練達）のもと、関西学院大学アカウントティングスクール（会計専門職専攻）では、プロフェッショナルとしての倫理観を有し、国際社会で通用する職業会計人の養成をめざしています。学生には、ただ単に公認会計士の資格をめざすのではなく、世界を視野に入れ、会計士に求められる高いレベルの倫理観を身に付けてほしいと考えています。また、そのための実践的で体系的なカリキュラムを編成しています。

2. 新公認会計士試験で求められる能力を確実に育成する教育プログラム

カリキュラムはフレキシブルに編成され、学生の要望にも応えています。簿記についてはレベルに応じて6科目（基礎、応用、実践など）を設置しており、全国的に見ても数少ない試みを行っています。また、教育プログラムは、新公認会計士試験制度にも対応したものとなっており、少人数制で授業を行い、きめ細かな指導により知識と能力を確実に育成しています。

新公認会計士試験では判断力や論理的思考力が問われることになり、合格するには、理論をしっかりと身に付けている必要があるため、従来の暗記型の勉強法では、対応するのは困難になるかもしれません。“覚える会計学”から“考える会計学”への転換が求められているのです。

3. 一つの問題にじっくりと取り組む姿勢を養うことができる授業

例えば、私が担当する授業のひとつ「財務会計課題研究」では、学生一人ずつに財務会計に関する課題を与えています。学生はそれに対する考え方をまとめて、参加者の前で発表します。私は考え方のアドバイスやアプローチの方法を示し、他の学生も一緒になって解決の道を探ります。この授業を通じて、一つの問題に対してじっくりと考える学習スタイルを養い、さらに論述の仕方や論文の書き方を理解することができます。

4. 将来の目標を確実に実現するための学習環境

アカウントティングスクールがめざすものは、高い倫理観を持ち、国際社会で通用する職業会計人の養成です。教員と学生の密な関係が、将来の夢を確かなものにします。学生たちはみんな、将来の進路を真剣に考えており、学生同士で情報交換をするなど、いい雰囲気が形成されています。教員からのサポートとしては、オフィスアワーと担当教員制度があります。オフィスアワーでは、教員はそれぞれ、週に1回、決まった時間を設定し、その時間は必ず研究室に在席し、勉強への取り組み方や将来の進路といった学生の相談を受け付けています。また、担当教員制度では、専任教員が10人程度の学生を担当して、履修、奨学金、公認会計士試験や将来の進路などについての相談を受けています。